

編集・発行：◎倉敷芸術科学大学図書館（〒712-8505 岡山県倉敷市連島町西之浦 2640 TEL. 086-440-1181 FAX. 086-440-1182）

編集・発行責任者：館長 生谷吉男（芸術学部教授）

館報は図書館ホームページでも読めます。  
http://www.kusa.ac.jp/lib/MAIN.HTML

倉敷芸術科学大学図書館報

# 学 而 思

（がくじし）

### 題号の由来

孔子と弟子たちの言行を取録した『論語』の「子曰、『学而不思則罔。思而不学則殆。』（先生が言われた、「学んでも考えなければ、はっきり理解できない。考えても学ばなければ、確かなものとならない」の意）による。読みは日本語の音読みとした。初代学長故谷口澄夫先生の筆による。

倉敷芸術科学大学が開学されて、早9年が経過しました。その間、本学図書館は、学生の勉学、研究の糧と場を提供し、教員の研究、講義の陰の力となるように蔵書の収集を始めとする整備、管理、レファレンスなど図書館機能の充実を図ってきました。2003年12月現在、蔵書数66、324冊、外国雑誌332誌、国内雑誌637誌であります。もちろん、これだけで本学全ての要望を満たすことはできません。少子化が進む昨今、図書館を取り巻く環境もめまぐるしく変化しております。限られた予算の中で、いかにして、更なる充実を図れるのか職員一同、鋭意努力しております。

本学の図書館として教員・学生の支援をするべく、環境整備はもとより利用者のニーズにすぐに対応できる体勢の強化が第一とサービスの向上に努めてきました。その根底には、あくまでも主役は利用者であり、利用者へのサービスを仕事の柱と考え行動しております。

IT革命と呼ばれる波は図書館においても別世界の話では無くなってきました。今までの事務処理や蔵書検索に加えて他大学・短大及び公共の図書館との連携が重要となってきました。例えば、他館のAという資料をWeb等で検索し本館に取り寄せるといっ

た、ITを利用したサービスを行ない、その図書館独自のノウハウを確立してきました。これは何人もの人を介した図書館内部に限定されたシステムでした。しかし、これからは、そういった図書館の内外に関わらず、更なる大きな変革が押し寄せてきました。今日、ITは日進月歩であり、それにお

## 図書館が 変わります



図書館長 生谷吉男

ける情報取得の早さを要求されるようになりました。すなわち、新しい情報をいかに提供できるかという即時性が重要となってきました。そのため、資料の媒体が変化しつつあります。今まで、資料の情報を検索する場合、Web等を利用すれば、世界中のいつでもどこでもできるようになっています。しかし、

今後はそれに加えて資料の内容そのものをWeb上に表示させ、必要に応じて閲覧が可能となり、世界中のどこにいても、手元に情報が届くというような要望を満たすことができるようになってきました。これは発行された資料の内容をそのままコンピュータのファイルに入れ込む作業です。これからは資料そのもの

のハードを購入するのでなく、情報として買って、Webを通じてそれを入手する事になります。一部の先生方はすでにこの方法で新しい情報を入手されておられます。こうした変革が軌道に乗れば学生教職員と共に研究室にいな

る事が、図書館は中継サービスが役割になり事務の内容も変化してくるでしょう。例えばコンピュータのアプリケーションソフトを箱入りのCD-ROMで購入するのでなく、カード会社を通じて瞬時に決済してWebを通じてダウンロードする形態に似ているのではないのでしょうか。図書館はまだまだ問題が残っており、現在、外国雑誌が年々値上がりしつつあり、これは各雑誌を電子化しようとする作業の負担を我々が払っているのではないかとこの懸念があります。こういった問題解決の実現には多くのハードルを乗り越えねばなりません。潮流は確実に押し寄せるでしょう。

いち早くニーズを掴み、それに対応しなければなりません。IT機器の充実と共に利用の促進が課題です。しかし、従来通りの図書館運営も大切な事です。多くの蔵書を管理して図書館利用者の要望を即時に捉えサービスに心掛ける事がこれからの重要である事は申し述べるまでもありません。向後の本学図書館の発展を祈っております。

それにより大学図書館では独自の電子環境を充実し、利用者サービスの向上を図らなければならない。近年、資料媒体がアナログからデジタル化に変化する傾向があり、そのため大学図書館の役割・存在意識も再度考え直す必要がある。そこで、まず情報リテラシー教育の推進・電子情報ライセン

## 大学図書館に 求められること

図書館事務室・事務課長 木村清則

# コンピュータと私



図書館事務室 館員 近藤 篤司

ここ最近の年賀状を見て気づくのであるが、年々コンピュータを利用し、家族写真やイラストなどを使用して自宅にて年賀状を作成しているものが増えている。私自身もデジタルカメラで子供の写真を撮影し、見栄えのいいよう編集し、作成している。

実に便利な時代になったものである。デジタルカメラで撮影した写真は、何百、何千枚という量の画像を、たった一枚のCD、DVDに保存することができるのである。写真を閉じておくアルバムなど当然必要となってくる。データとして保存された写真は色あせたりすることもなく、好きなときに好きな写真だけ印刷することができる。住所録なども容易に作成できるので、ペーパーで保存しておく必要がなく、一度登録さえすれば、ボタンひとつですべての宛先に宛名印刷することができる。

また、インターネットも普及により、自宅からでもコンピュータさえあればショッピングや情報収集などが簡単にできるようになった。また、遠く離れた人とのメールのやりとりで、簡単に連絡を取り合うことができるのである。

私が初めてコンピュータを購入したのは今から十数年前であろうか。まだパソコン普及率が7、8%という時代であり、当時学生であった私は、アルバイトでお金をため秋葉原に行き、二十五万円ほどのパソコンを購入したのを今でも鮮明に覚えている。今は安価なハードディスクではあるが、当時は数十メガ容量のハードディスクでさえ五万円ほどし、とても買えるものではなかった。インターネットなどという言葉は聞いたことがないという時代であった。

いざパソコンを購入したのはいいものの、当時ではパソコンのOSはwindowsというような使いやすいいものではなく、DOSというもので、素人にはまったく使い方がわからなかった。DOSの解説書や友人に聞くなどいろいろ試みたが、なかなか理解できず、せいぜいワープロソフトを購入し、ワープロとして使用するか、ゲームソフトを購入し、ゲーム機として使用するぐらいであった。しかし、今現在では、私にとつてコンピュータは必要不可欠なもののひとつである。二十年前に現在のインターネット社会を誰が想像できたであろうか。時は経ち、今やパソコン普及率は50%を越えるほどにも成長した。十年後には誰もが想像しえないようなことがパソコンでできるようになる時代がやってくる、やがてはマトリックスのような、人工知能をもったコンピュータが人間を支配する時代が現実になるかもしれない。



## チャレンジワーク プログラムの受け入れ



平成15年11月11日(火)〜13日(木)の3日間、本学図書館にて、チャレンジワークプログラム(仕事体験プログラム)を倉敷市立連島中学校2年 光本聖二君の参加で行なった。大

学図書館の概要説明後、カウンターでの貸出・返却、図書目録・装備・配架、雑誌の受け入れ・配架などを行ない。本人

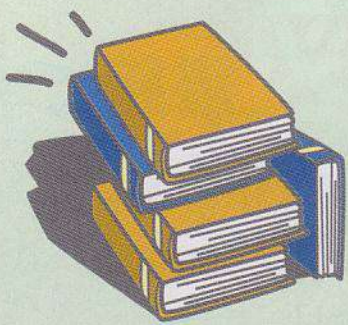


チャレンジワークプログラムに参加した光本聖二君

(前頁より)

スアグリーメントの処理・アナログ媒体資料とデジタル媒体資料の組織化・情報の信頼度を判断し選択・コレクションデータベース・ウェブメントの考え方・e-レファレンス・ITエリアの設置が従来の大学図書館に比べて要求されるのではないかと。さらに基本の司書的な業務も要求される事になり、利用者と資料を導くナビゲーション・レファレンスによる指導業務のサービスの範囲・種類を拡大しなければならぬ。

しかし、情報量が膨大化する時代でも、利用者のニーズに 대응するという図書館の概念は変えることなく、適切な意志決定プロセスの確立がこれまでに以上に要求される時代ともいえるのではないかとと思われる。



# 学びの窓

## 学生達の今



### 「東山魁夷」との出会い

芸術研究科 美術専攻  
2年 飯間 智美

私が日本画家東山魁夷に出

であった。

会ったのは、高校2年の春だった。日本画というものを全く知らないにもかかわらず、先生の勧めもあり、油絵でもない水彩でもない日本画という未知のジャンルに興味を抱き、大学進学を日本画に進もうと漠然と考えていた頃だった。

そんなある日、私は地元的美術館で開かれていた展覧会で、初めて本物の日本画を見た。それこそが、東山魁夷の絵だった。強烈な印象こそ感じなかったものの、そこには確かに私を惹きつける何か穏やかな感動があった。そして、ひとつの絵の前から離れられないでいる私があった。それは、東山魁夷晩年の作品『行く秋』であった。黄金に輝く楓の落葉が画面いっぱい描かれており、そこを踏み歩く人の足音や、流れる風のカサカサという音が今にも聞こえるよう



私は学校の帰り道、書店に寄り日経ポケット・ギャラリーの「東山魁夷」を買い求めた。ポケットに入りそうなサイズで、すでに日本画の巨匠となっていた東山魁夷の本の中で、高校生の自分にとって一番買い求めやすい価格のものであった。その本により、絵だけでなく東山魁夷その人を知ることができた。

東山魁夷との出会いにより、私は日本画に進むことの確信を得た。そしてこの本は、今も見る度、あの時感じた穏やかな感動や、将来に夢膨らましていた当時の自分を思い出させてくれるのだ。



### 感性を磨き心豊かにする 本との出会い

芸術学部 工芸学科  
2年 和泉 裕子

私は、今まで自主的に長い文章を読んだことはほとんどありません。

小学生の時に読んだ「にんじん」という物語ぐらいです。これまでの私は、自分の中で読書とは、つまらなく、時間の無駄という変な固定観念があり、知らず知らずのうちに遠い存在になっていました。

しかし最近になって、私が読書と楽しく付き合えるようになったのは、自分好みの分野の本が、図書館に沢山あることを知ったからです。あるとき図書館内で心理学の分野を見付け、そこにはフロイトやユングなどの固めものもありましたが、その中でも私が惹かれたのは自伝などの、

作者本人の体験、考え方が書かれているものです。小学生の時とは違って、自分が今まで体験したことのないことや、辛かったこと、色んな出来事を重ねていく毎日の中で、自分の方向性などが分かりづらくなった時、今の自分の置かれている環境の中だけでは解決し難い時にこそ、私

が今まで読んだ伝記の著者に感銘を受けたことで間接的にも自分自身に影響を与えられていると感じます。今では本を読む事は、単に活字を追いつつなく頭に疎覚えであったことが、実は現在の私の感性を磨き、心を豊かにしてくれるもののひとつだと思えます。



## 私のお薦めの一書

書籍名 入門ソフトウェアシリーズ Java言語  
「著者」河西 朝雄 / 「出版社」ナツメ社

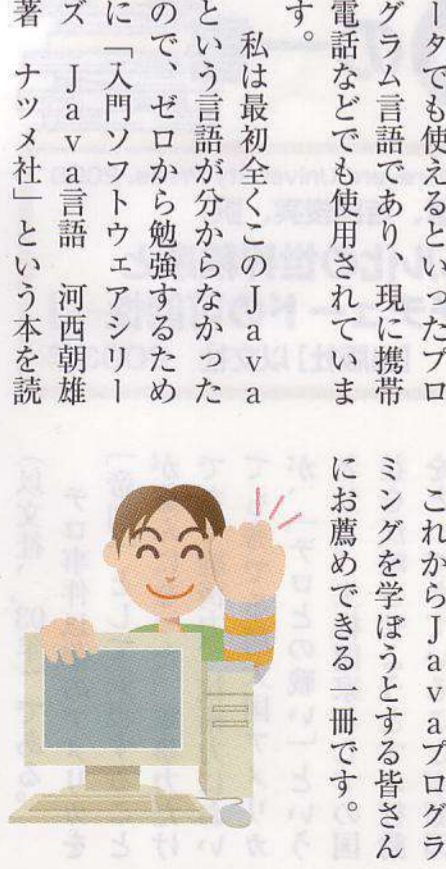


産業科学技術学部  
ソフトウェア学科  
3年 小野 裕伸

私はソフトウェア学科に在籍しています。私たちに就いてプログラミングの勉強は必須です。最近ではJava言語というプログラミング言語の勉強をしています。Java言語はインターネットとの相性が良く、作成されたプログラムはWebブラウザの中で動かすことができます。また、原則としてどのコンピュータでも使えるといったプログラム言語であり、現に携帯電話などでも使用されています。

私是最初全くこのJavaという言語が分からなかったのですが、ゼロから勉強するために「入門ソフトウェアシリーズ Java言語 河西朝雄 著 ナツメ社」という本を読みました。多くのプログラムの入門書は、入門書という割には文字が小さく文章がごちゃごちゃして読みにくく分かりにくいので、とても初心者向きとは思えないものが多いようです。それらに比べて、この本は文字が見やすく、図やプログラムの実行結果画面なども書かれており、プログラムのイメージが湧きやすくなり、理解しやすいことが特長です。また、簡単に適切な多くの例題が掲載されており、その説明も分かりやすく書かれているのでひとつひとつの命令が何を行っているのか、なぜこうなるのが理解しやすいのも良い点です。私はこの本を読んでJavaプログラミンの全体像が掴めました。

これからJavaプログラミングを学ぼうとする皆さんにお薦めできる一冊です。





### 「読書離れ」への対応と「図書館」のあり方

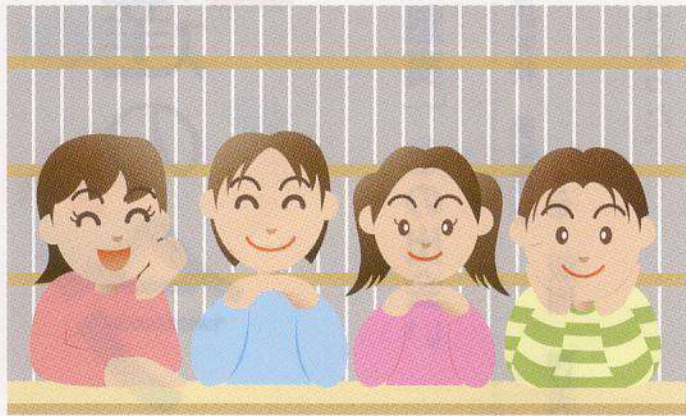
産業科学技術学部 生命化学科  
1年 大瀬 哲哉



### 「先達に学ぶ」

国際教養学部 起業学科  
4年 土井 将弘

図書館を利用している一人として、私は在学生の皆さんにもっと図書館を利用してもらいたいと思います。近年、我々学生の文章力・理解力の低下、想像力・知的好奇心の欠如、言葉の乱れ、といった現象が社会問題として取り上げられるようになっており、基本的な読解力が不足しているせいか、わからないことがあるとすぐに人に聞くという風に指摘されがちです。しかし、こうした問題は、われわれ一人一人にとっての自主学習の展開、読書習慣の形成が構築できれば、「読書離れ」の問題が解決されるかという点、単にそれだけではないはずであり、具体的には、図書館とは利用者に借りたいと思わせる資料を提供する機関であると同時に、利用者がその資料に目を通して始めて「資料の館」という役割を担う場として成立すると思われ



ます。そのためには利用・閲覧しやすいように整備されており、かつ豊富で魅力あるコレクションの充実を目指した図書館づくりの構成。即ち、図書館を通じて、学生達に「学問の楽しさ」をうまく案内できれば、自分たちの読書観が大きく変わり、図書館が自ら進んで通いたい場へと再生するのではと考えています。しいては読書によって、豊かな感性や情操が鍛えられ、「言葉」を知ることによって表現力や創造力を豊かにし、文章を読むという行為から思考力や判断力を高める機能が備わるのではないのでしょうか。そしてそれが、将来社会に出て行ったときに図書館における価値が、他人にはないテクニクやセンスを磨いてもらうための存在であってほしいと切に願います。



二千年も昔、現代にも通じる兵法書『孫子の兵法』が生まれた。私はこの『孫子の兵法』を中心に、兵法をいかにして現代に活かすかということを卒業論文にまとめあげようと思っている。本学へ講師として教鞭を振るわれている中條高徳先生は、その著書の中で「兵法とは知恵の宝庫である」と言われている。それは戦争においてだけでなく、ビジネスや人間関係、あるいは人生にまで言えることであり、その応用範囲は無限に可能性を秘めている。例えばそれは恋愛にも応用できるし、野球やサッカーなどのスポーツにまで応用できる。日本の戦国時代の名将武田信玄の有名な旗印、風林火山。これは「疾きこと風のごとく、その徐かなること林のごとく、

## 私のお薦めの一書

M. Hardt and A. Negri, Empire, Harvard University Press, 2000 (水嶋一憲、酒井隆史、浜邦彦、吉田俊実、訳)

### 『<帝国>—グローバル化の世界秩序とマルチチュードの可能性—』

[出版社] 以文社 2003年



人間文化研究科

人間文化専攻

2年 松阪志津季

2001年9月11日のアメリカで勃発した同時多発テロは、グローバル化の進展が進展しつつある世界を震撼させた。事件以降、こうしたテロが勃発する可能性を予言するまでいわれて注目を浴びた一冊がある。A・ネグリとM・ハートの共著、『<帝国>

(以文社、03年)である。テロ事件以後のアメリカを「帝国」として表現することが盛んになった。軍事力だけでなく経済力、技術力においても秀でる超大国アメリカが、「テロとの戦い」という名分と、主権国家としての国益を反映させようとする行動をとってきていることが原因である。しかし、このような「帝国」と本書でいう「帝国」とは異なる。「帝国」は、いかなる国家も特定せず、情報技術の発展が可能とするネットワークによって管理されるグローバルな秩序のことである。人々はそれぞれの固有性を持ち、縦横無尽に行き来することができながら、生存そのものが統治の対象とされる管理社会である。そこに、今我々があるのだと説明する。著者の目的が、人間存在の多様性(マルチチュード)が何事にもとられず、情動に影響する秩序に意義を唱え、新たな世界を構築する可能性をもっていることを提示しようとしていることは読み取れる。ネオ・マルクス主義的な思想書ではあるが、我々が改めてその存在や生そのものに向けられる機会を与えてくれるだけでなく、グローバル化によって混沌とした現在の世界をみる一つの方法論として読むことができる。

# 近隣文化施設訪問記

## 森下美術館

レポーター 人間文化研究科 人間文化専攻 2年 呂秀芬(台湾より留学)



森下美術館は岡山県和気郡日生市に位置し、昭和50年に開館された古代アメリカの文化財を、収集・展示している国内唯一の美術館で、3階建てのこの美術館には紀元前2500年〜紀元後1500年までの約4000年にわたる長い期間の遺跡が展示されています。一階展示室では15〜16世紀初期に栄えたインカ帝国以前の諸文化やナスカ文化

など、2階展示室では14〜16世紀に栄えたアステカ文明、3〜9世紀に栄えたマヤ文明などで使用されていた土器・土偶・石彫・織物等を中心にして約150点(全収蔵約1,600点)展示されています。展示物を拝見中は何んだかものすごく貴重なものを見ているような気分にはさせられた。同時に各遺産には新たな発見や感動を覚えた。



## 森下美術館 案内図



中でもパナマ共和国に住むクーナ族の女性がブラウスとして使用している「モラ」に非常に興味をもった。ブラウスの柄はクーナ族が代々受け継いでいる入れ墨や神話をはじめとして動物・人間・植物など様々である。

この美術館のもう1つの特徴は、美術館の外装そのものが16,000枚の陶板によって構成されているところにある。何だか建物自体が美術的作品的ように思えてくるほど圧巻だった。私が過去に訪れた美術館といえば絵やガラス、彫刻などを取り扱った

ものがほとんどで今回のような古代アメリカ文化財を取り扱っている美術館に足を運んだことはなかったためか展示されていた遺産には非常に新鮮感があり目を見張るものがあった。

4月より9年振りに図書館勤務となりました。以前、岡山理科大学図書館及び他部署勤務を経て、こちらの図書館へまいりました。何故か新人?になった気分がカウンターに座っていますのでよろしくお願ひします。学生のみなさんには図書館をおおいに利用して一冊でも多くの本を読み、有意義な学生生活を送られることを望みます。

2003年4月に本大学留学生室より異動となりました飯田です。よろしくお願ひします。自分が今まで配属されていた部署とは全く畑違いの職場のため戸惑うばかりですが、反面、新鮮な毎日です。大ベテランと専門家に囲まれて、日々勉強しております。私学図書館として、みなさんの研究などを完全にバックアップできるようにしていきたいと思ひます。

図書館事務室

國正直江

図書館事務室

飯田康朗

着任のみなさんへ  
よろしくお手を  
03.4.16



# 倉敷芸科大学生諸君!

直木賞作家

出え根達郎



良い友人とめぐりあう場所ってありますか? と中学生に聞かれた。さて、そういう場所は、あるだろうか? 学校? 塾? アルバイト先? 旅行で?

どんな人を良友と呼ぶか、の問題である。会うと決まっつてぐちをこぼす人がいる。人の悪口を言う者。自分の話を一方的に語る者。

こういう人は友人にしたいくない。ほしい物があったら相談にのるよ、と気安くうけあう人がいる。そのメーカーの者と知りあいたから頼めば安く買える、と言う。こんな人を友にしたら、同じように利用されるだけである。

## 図書館の友

明治の文豪の一人、幸田露伴は、若いころ、図書館に通って勉強した。いつも会う顔がある。淡島寒月という同じ年頃の青年である。明治の初めにピアノを二台も輸入して、店の飾り物にしたという金持ち商店のむすこだが、十代で英語を学んでいるうちに、猛烈に外国かぶれをした。

外国人になろうとして、髪を赤く染めた。この人は「茶髪」の元祖である。明治六、七年の頃というから、古い。外国に行って日本の文化のことを聞いた。答えた。

「それに、図書館の友は、何も人間とは限らない。図書館そのものが友であっていいし、本が友人でもおかしくない。とにかく図書館には良い友がたくさんいる、ということさ。」

## 図書館

### 忙々日誌

03 3月▽23 学位記授与式

4月▽1 人事異動、(出)井上弘行末吉由佳、(入)國正直江、飯田康朗▽5 入学宣誓式▽24 STNのMEDLINEセミナー出席(飯田館員)

5月▽7 Dialog/J OIS研修会出席(飯田館員)▽22 ILLシステム講習会出席(近藤館員)▽28 平成一五年度岡山県図書館協会第一回理事会出席(松葉室長代理)

6月▽18 第一回図書委員会開催▽20 私立大学図書館協会

主催○三年度西地区部会総会出席(松葉室長代理)▽23 平成一五年度岡山県図書館協会総会出席(松葉室長代理)

7月▽8 第一回ライブブラリ・コネクト・セミナー出席(木村課長)▽10 LIMEDIO Seminar 2003 に出席(近藤館員)▽29 図書館報記事取材(飯田館員)

8月▽20 第64回私立大学図書館協会総会・研修大会出席(松葉室長代理)▽20 平成一五年度整理技術講習会出席(飯田館員)▽27 平成一五年度 大学図書館司書主務者研修会出席(木村課長)

9月▽19 私立大学図書館協会主催○三年度西地区部会研究会出席(國正館員)

10月▽2 第三三回私立大学図書館協会 中国・四国地区研究会出席(近藤館員)▽6 岡山県大学図書館協議会主催第一九回研修委員会出席(渡邊館員)▽8 第二回図書委員会開催▽23 第四四回中国四国地区大学図書館研究集会出席(渡邊館員)

11月▽7 第二回ライブブラリ・コネクト・セミナー出席(木村課長)▽11 連島中学生図書館で職場体験学習▽17 岡山県図書館協議会主催平成一五年度図書館業務講習会出席(飯田館員)▽27 平成一五年度岡山県大学図書館協議会第一回研修会(渡邊館員・飯田館員)

12月▽12 岡山県図書館協議会・岡山県学校図書館協議会主催

催平成一五年度製本講習会出席(渡邊館員・飯田館員)

### 「図書寄贈者(個人)」

厚くお礼申し上げます。

- 生谷吉男 武智秀夫
  - 佐藤恒夫 西田小百合
  - 高橋千波 福田彰浩
  - 岡田修二 渡邊さよ
  - 伊丹俊之 大野英志
  - 古村英一 吉野克彦
  - 名木和夫 山尾秀俊
  - 水野和夫 坂口卓也
  - 李秉昌 藤岡卓進
  - 八塚進 山岡景秋
  - 草野圭弘 井上弘行
  - 浦上新一郎 井上弘行
- (右敬称・書名略、寄贈順、お名前の方にさせていただきます)



KURASHIKI UNIVERSITY OF SCIENCE AND THE ARTS